



小千谷市の呼びかけで益城町を支援

本日9日、杉並区職員2名が熊本県益城町に向けて出発しました。この職員派遣は、杉並区と交流のある新潟県小千谷市が事務局を務める「中越大震災ネットワークおぢや」の呼びかけに応えたもので、6月30日までに延べ6名を派遣し、住家の被害認定調査にあたることになっています。

「中越大震災ネットワークおぢや」は、平成17年10月に小千谷市で設立されました。その設立の目的は、平成16年10月23日に発生した最大震度7を記録した中越大地震での経験教訓を蓄積し共有することで、その後の災害でのさまざまな困難に立ち向かう、そのための拠点とすることにあります。小千谷市は、中越大地震で、それまでに経験のない大きな被害を受けました。その時に、阪神淡路大震災で被害を受けた多くの自治体職員が、その経験を活かしてリーダー的な役割を担い、そのことで膨大にある職員がすべきことの交通整理がついたことが設立のきっかけでした。

その中越大震災の翌日に、杉並区は飲料水や食料、毛布などの救援物資を小千谷市に届けました。杉並区と小千谷市は平成16年5月12日に「災害時相互援助協定」を締結していました。こうした関係もあり、杉並区もネットワークの設立趣旨に賛同し、当初からの会員になっています。

益城町は、熊本地震で震度7を2度観測しました。町内では、建物の全壊3,966棟、半壊3,109棟、一部損壊は8,216棟に上りました。このような状況の中で、第2次の住家の被害認定調査を始めるため、益城町からネットワークに応援の要請がありました。この要請に応え、杉並区からは6月9日～16日、16日～23日、23～30日の3つの期間にそれぞれ2名の職員を派遣することにしました。

【問い合わせ先】

危機管理室危機管理対策課 電話3312-2111 内線1581